

第5回 藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議 議事要旨

■日 時：2018年（平成30年）11月14日（水）午後3時00分から午後5時00分まで

■場 所：藤沢市役所本庁舎 4階4-4会議室
（神奈川県藤沢市朝日町1-1）

■出席者（敬称略、50音順）

会 長：柳沢厚

副会長：岡村敏之

委 員：相澤光春、浅井健治、石井博之、石渡悠祐、上田敬生、大矢卓嗣、川崎隆之、
北村和利、幸嶋規之、小林寿美恵、佐藤大作、柴田賢一、嶋田勝弘、竹村裕幸、
長瀬輝行、西村靖生、林正行、三上雅之、渡部直樹

事務局：藤沢市 都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

■議事次第

1. 開 会

2. 議 事

- （1）第4回あり方検討会議における意見
- （2）南口駅前広場の再整備の方向性について

3. その他

■議事概要：

○第4回あり方検討会議において出された南口駅前広場に対する意見のまとめを説明し、その後事務局から南口駅前広場の再整備の方向性を提示した。方向性については、藤沢らしさを感じられる空間づくりの考え方、再整備の方針、デッキのあり方について示した。その内容を踏まえ、再整備の方向性に対する意見交換を行った。意見交換の概要は次のとおりである。

<デッキについて>

- ▶デッキを撤去し地上部の歩行者通行量が増加することにより、バス・タクシーの定時性や歩行者の安全性が低下するのではないか。また、南北のつながりが弱くなるのではないか。
- ▶JR線や小田急線が2階となるため、地上部と2階部分の昇降は必須となる。デッキを撤去するのではなく、現状デッキの各端部にエスカレーターを付けることで、解決できるので

はないか。

- ▶他都市では、デッキを直線的に結んで失敗している事例もあるのではないか。
- ▶デッキを撤去する前提ではなく、デッキが必要だという考えも踏まえ、様々な可能性がある中で今後議論をしていきたい。デッキが残る場合の計画案を確認した上で、1階重視か2層構造とするかの議論ができると考える。

<南口駅前広場再整備の方針について>

- ▶再整備の方針について、このような方針で駅前広場を再整備できたら良い、というところまで共有できたのではないか。
- ▶長期的な再整備として考えるならば、2mの高低差を合わせる等、更に踏み込んだ計画にするのが良いのではないか。JR線や小田急線を絡めて、もっと広い視点で計画を立ててほしい。
- ▶将来的に、南口は地上部分を一番大事にするべきではないか。既存のデッキを残すよりも、地上の連続性を保てる方が良い。
- ▶藤沢駅は住民だけでなく様々な方が利用している。実際の需要を踏まえた上で、求められていることを適える駅前広場とするのが良いのではないか。
- ▶南口駅前広場のイメージに描かれている滞留空間がどのような空間となり、またどんな使われ方にしたいのか、分からない。広いスペースではないことから建物側と連携するのか等、具体的に空間のイメージを示してほしい。
- ▶限られた空間の中で、何を優先し、何を犠牲にするかを考えていかなければならない。現状は、デッキを撤去することによるメリット、残すことによるデメリットが示されていないため、それぞれ確認する必要がある。

<次回の資料について>

- ▶30～50年後とあるが、その間の段階的なイメージを示す。
- ▶デッキの有無による比較や「再整備の方向性」との関係を示す。
- ▶デッキの有無により生じるメリット・デメリットならびにその対象者を示す。